

# みえてきた弥生の巨大なムラ

これまでの百数十回の調査で、唐古・鍵ムラの内容が少しずつ明らかとなってきています。直径約400メートルの集落域を囲む多重環濠や2棟の大型建物跡、そして多数の井戸や建物跡などが確認されています。  
出土した膨大な土器や石器、木製品、そして全国有数の出土数を誇る絵画土器などは、弥生時代の生活を解明するのに欠かせない資料となっています。



# 唐古・鍵考古学ミュージアム

平成30年にリニューアルオープンするミュージアムの展示内容を紹介いたします。今までよりもさらに唐古・鍵遺跡に特化した展示内容となります。

平成30年6月  
リニューアル  
オープン



唐古・鍵考古学ミュージアムでは、これまでの調査で出土した膨大な資料の中から弥生の逸品を展示しています。



田原本青垣生涯学習センター内

## 第3室



唐古・鍵遺跡周辺の遺跡、そして弥生時代の終わりから古墳時代の始まりをテーマに展示します。また、埴輪コーナーには重要文化財埴輪牛も展示しています。

## 第2室



唐古・鍵遺跡の膨大な出土品のうち、特に重要な品々を展示します。絵画が描かれた土器、精緻な文様で飾られた土器やヒスイの勾玉など、魅力溢れる弥生の逸品が並びます。

## 第1室



唐古・鍵ムラの全景をジオラマで展示するほか、弥生時代の環境や生業、他地域との交流などをテーマに展示します。弥生人の生活を垣間見ることができます。

## 唐古・鍵遺跡を支える ボランティアの方々

唐古・鍵考古学ミュージアム・ボランティアガイド

山本淳史さん



展示品解説のほか、「火おこし」や「弥生土器での赤米炊飯」など、子どもたちへの学習支援も担当しています。ガイド活動では、関心度が低い方にも対話を工夫することで、少しでも興味を抱いてもらえるよう努めています。「楽しかった」「勉強になった」という帰り際の一言が、遺跡の魅力をもっと伝えたいという思いの原動力になっています。

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会 (愛称「唐古・鍵支援隊」)

会長 今西和代さん



唐古・鍵遺跡は、2000年前の日本を代表する遺跡で、弥生の生活文化を示す遺物が良好に残っています。私たちは、この遺跡がいかにすごいかを知ってもらうために、学校での学習支援や、町内外への情報発信、弥生体験活動などを行っています。75名の会員それぞれの得意分野を生かしてさまざまな弥生探求に挑戦しながら、日々楽しく学んでいます。